

《担当者名》○神田直樹 [kanda@hoku-iryu-u.ac.jp]
 桑原ゆみ [yumi-k@hoku-iryu-u.ac.jp]

【概要】

学生の関心領域の慢性病者を受け持ち、慢性病者の病い体験の全体的理解や健康課題の総合的なアセスメントに基づき、慢性病者・家族との目標共有により、セルフケア能力やウェルビーイングを高めることのできる支援を計画、実施、評価する。

【学修目標】

1. 対話やヘルスアセスメントをとおして慢性病者の病い体験や状況を全体的に理解できる。
2. 慢性病者・家族の価値観、生活、人生を尊重し、パートナーシップを確立できる。
3. 慢性病者・家族のセルフケア能力・ウェルビーイングを高めることの支援を計画、実施、評価できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	実習課題1 慢性病者・家族の全体的理解	1) 対話をとおして慢性病者や家族の病い体験を全体にとらえる。 2) ヘルスアセスメントにより慢性病者の健康課題や生活課題を総合的にアセスメントする。	神田 桑原
	実習課題2 パートナーシップの構築	1) 慢性病者や家族の価値観、生活、人生を尊重する。 2) 健康課題に協働して取り組むため慢性病者や家族とパートナーシップを構築する。	神田 桑原
	実習課題3 セルフケア能力・ウェルビーイングを高める支援	1) 慢性病者・家族が見通しをもって健康課題に取り組めよう計画し、支援する。 2) 病いのコントロールや症状マネジメントに取り組めるよう支援する。 3) 社会資源・制度の効果的活用と多職種協働により慢性病者・家族のウェルビーイングを高める支援を提供、評価する。	神田 桑原
	【実習場所】	学生の実習計画に沿って、実習課題が達成可能な実習場所を学生と相談、決定する。	
	【実習方法】	実習指導者や指導教員のスーパービジョンを受けながら慢性病者を受け持ち、総合的アセスメントに基づく支援の提供を実践的に学ぶ。	
	【実習期間】	おおむね2週間。但し、課題達成状況により延長する。集中実習か分散実習かについては学生の実習課題や学習状況により相談・決定する。	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習評価表60%、実習レポート40%

【教科書】

実習要項を参照

【参考書】

パトリシアRアンダーウッド著，南裕子監修:看護理論の臨床活用 パトリシア・Rアンダーウッド論文集，日本看護協会出版会,2003.

その他随時提示する。

【学修の準備】

慢性病者を全体的に理解し、慢性病者のウェルビーイングに資することができる看護実践能力を高める上での、自己の課題を明確にして、実習計画を立てて臨むこと。